

### 生活や生業を支える漁港周辺の構成要素に関する保存管理・整備の体制

#### —大分県姫島村におけるケーススタディ—

正会員 ○藤田晃亘\*1 同 濱田菜波\*2  
同 姫野由香\*3

文化的景観 都市計画 地区とコミュニティ  
生活や生業 管理や整備 集落構成

#### 1. 研究背景・目的

2005年の文化財保護法改正以降、全国で重要文化的景観の保護が進められているが、その保護には、文化的景観を構成する景観構成要素の保存管理や整備の方法、体制を定めた文化的景観保存計画を策定する必要がある<sup>1) 2)</sup>。

2018年現在、大分県姫島村では、島独自の景観を重要文化的景観として保護しようと取り組んでいる。

姫島村を対象とした既往研究<sup>3)</sup>より、文化的景観を構成し得る重要な景観構成要素の候補が明らかにされている。しかし、それらの具体的な保存管理や整備の方法、体制については明らかにされていない。また、「漁港周辺」は地域の生活や生業に必要な機能を有する重要な空間であることが明らかにされている<sup>4) 5)</sup>。

そこで本研究では、姫島村において、漁港周辺を構成する重要な景観構成要素の、保存管理や整備の方法と体制の現状を明らかにすることを目的とする。

#### 1-2. 研究方法

大分県姫島村における既往研究<sup>3) 4) 5)</sup>より、生活や生業を支える漁港周辺の、特徴的な重要な景観構成要素の候補を抽出する。そして、それらの利用方法や地区ごとの機能の違いを整理する。次に、第一港である南浦地区の漁港周辺における、各要素の位置関係を明らかにする。さらに、利用実態として、各要素の管理や整備の体制と方法を明らかにする。

#### 2. 対象地域

大分県姫島村は、九州国東半島北東北約6kmの瀬戸内海沖に位置する離島であり、6つの地区で構成される。漁業を基幹産業としているが、年々漁師数が減少している<sup>6) 7)</sup>。

#### 3. 調査対象となる重要な景観構成要素候補

姫島村の基幹産業は漁業であり、それらに関する施設は、生業を支える特に重要な景観構成要素の候補であるといえる。そこで、(1) 林ら<sup>3)</sup>の既往研究により抽出された、生活や生業に関わる50件の重要な景観構成要素の候補のうち、漁業に関係する要素を抽出した。また、安藤ら<sup>4) 5)</sup>の既往研究より、(2) 漁港周辺に1970~90年代の基盤整備事業<sup>注1)</sup>以前から存在し続け、生活や生業の機能を支える社会共通資本<sup>注2)</sup>を要素として抽出した。(1)

(2)より、【漁具倉庫】、【漁業作業所】、【見張り小屋】、【公民館】、【盆坪】、【恵比須社】を調査対象とした。

【漁具倉庫】は漁具の収納に利用される。【見張り小屋】は、主に海の荒れ具合を確認する際に利用され、漁の前

後で、漁師が雑談や漁の情報交換をする際の寄り合い所としても利用される。【恵比須社】は、主に年に1度行われる恵比須祭り<sup>注5)</sup>の際に、各地区ごとで漁師が参拝する<sup>8)</sup>。【公民館】は地区住民の寄り合い場所として利用される他、祭事の準備やその後の宴会を行う場所として利用される。【盆坪】は盆踊り<sup>注3)</sup>や船曳祭<sup>注4)</sup>の際の会場として利用される他、ゲートボールなどの日常的なレクリエーションの場として利用される。

調査対象の各地区における機能を表1に示す。西浦、松原、大海地区では、【漁具倉庫】と【漁業作業所】の機能が統合されている。南浦地区では、【漁業作業所】と【見張り小屋】が統合され、集会所と呼ばれている。また、北浦、稲積地区の【見張り小屋】のように、漁業以外にも利用される漁業施設が存在している。以上のことから、地区ごとに漁業施設の機能を可能な限り重複させて、施設整備し、管理されていることが分かる。

表1 各地区に存在する調査対象の「機能」と「施設名」

調査対象	機能	地区名					
		西浦	北浦	南浦	松原	大海	(金)両瀬(稲積)
漁業施設	漁具倉庫	○	○	○	○	○	○
	漁業作業所	○	○	○	○	○	○
施設	見張り小屋(漁師小屋)	○	○	○	○	○	○
	災害時の消防団待機所	○	○	○	○	○	○
公民館	集会所	○	○	○	○	○	○
	宴会場	○	○	○	○	○	○
盆坪	物置	○	○	○	○	○	○
	バス停	○	○	○	○	○	○
恵比須社	選挙投票所	○	○	○	○	○	○
	災害時の消防団待機所	○	○	○	○	○	○
施設が存在する(○)、施設が存在しない(-)、各地区での施設の呼び名(太字)	バス待合室	○	○	○	○	○	○
	災害時の消防団待機所	○	○	○	○	○	○
統合されている施設枠	駐車場	○	○	○	○	○	○
使われていない(*)		○	○	○	○	○	○

#### 4. 調査対象に関する施設(要素)の利用実態

フェリーが着港し、姫島の第一漁港である南浦地区の漁港周辺の様子を図1に示す。

調査対象は全て漁港周辺に立地している。漁港周辺では、漁師は【漁具倉庫】と【集会所】を経由し漁へと向かう。一方【恵比須社】は基盤整備事業による港の埋め立てに伴い、現在の漁師の動線上から外れ、漁師が漁の前に恵比須社で参拝する慣習が確認できなくなった。

地域住民が日々のレクリエーションや地域の集会等のために、集落から【盆坪】や【公民館】へと向かう動線も確認できる。このことから、漁師と地域住民の生活や生業の活動動線が漁港周辺に集中していることが分かる。

#### 5. 調査対象の保存管理や整備の方法と体制

##### 5-1. 調査対象の保存管理や整備の方法と体制

図2に調査対象の管理や整備の体制等の相関図を示す。漁業施設の所有者は漁協であるが、日々の管理は、地区ごとの漁師全員で構成された「浦浜会計」という組合に

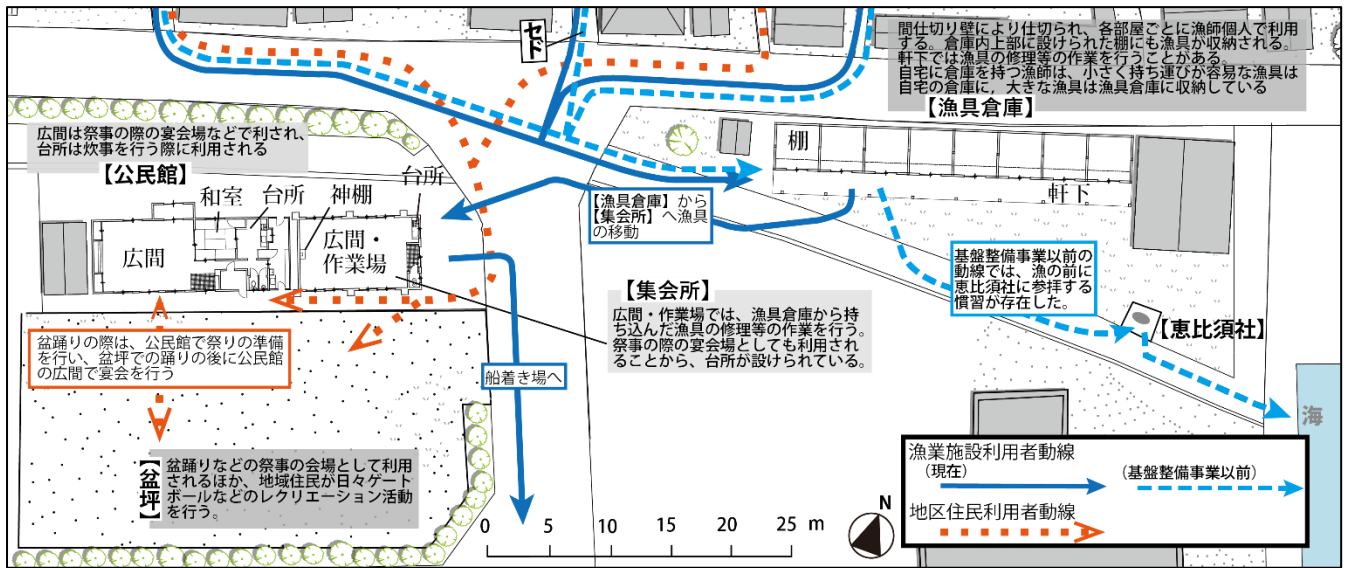


図1 南浦地区漁港周辺図

委託されている。また、漁師は全員漁協の組合員である。

南浦地区の【集会所】や【漁具倉庫】の管理や整備の方法は、施設内の清掃と建物の修繕である。清掃の日程や担当は決められておらず、不定期に行われる。

これらの漁業施設の保存管理や整備、施設運営の費用として、毎年行政から補助を受けている。不足分については、浦浜会計の漁協組合員の漁獲高に応じた徴収金で補われている。さらに、漁協組合員1人につき漁獲高の5.5%を浦浜会計が徴収し、漁業施設の使用料として漁業組合に納めている。

【恵比須社】や【公民館】、【盆坪】は村が所有しているが、【恵比須社】は浦浜会計が、また、【公民館】や【盆坪】は、各地区の区長や駐在員、地区住民からなる自治会が管理や整備を行っている。それぞれ祭事に合わせて清掃が行われており、特に【公民館】や【盆坪】については祭事の際以外で年に2回程度清掃が行われている。これらより、調査対象の漁業施設や【恵比須社】は浦浜会計が、生活を支える【盆坪】や【公民館】は、地区住民が管理や整備を行っていることが分かった。

### 5-2. 調査対象の保存管理や整備の現状の課題

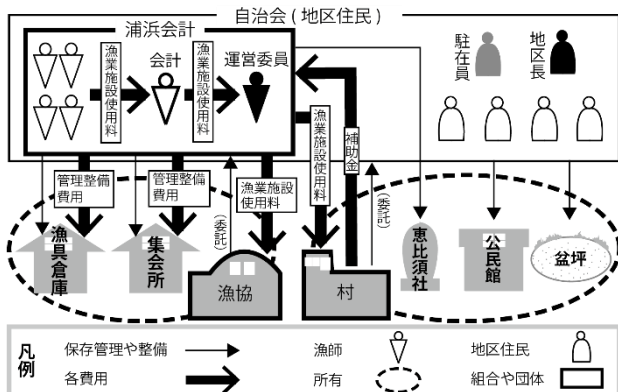


図2 南浦地区における保存管理や整備の相関図

ヒアリング調査より、漁師数の減少により、1人あたり

の費用や管理行為の負担が大きくなり不安であるという意見が挙げられた。また、図4から、漁協組合員の調査対象の管理や整備が、最も負担が大きく、漁師数の減少によって今後さらに負担が大きくなると考えられる。これまでと同じ体制や方法では、管理や整備の現状の体制を継続することが困難であるということが分かる。

### 6. 総括

本研究では、まず施設機能の重複や統合の実態を把握し、調査対象の位置関係と利用実態や、それらの管理や整備の方法、体制の現状を明らかにした。

調査対象は全て漁港周辺に立地し、それらの施設は、一部機能の統合がなされていた。漁港周辺では、基盤整備事業により漁師の動線も変化し、利用されない施設が出現していたことを明らかにした。漁港周辺の整備にあたっては、これまでの使われ方や利用者動線への配慮が必要であると考えられる。生活や生業を支える施設の管理や整備では、漁師の負担が大きかった。このことから、施設機能の重複や統合について、漁業関係者との議論や施設利用者の意向、これまでの利用方法に配慮しながら、対応を検討する必要があると考えられる。

- 【補注】
- 注1) 1957年に離島振興対策実施地域に指定されて以降、姫島では1970~90年代にかけてインフラ整備が活発に行われた。
  - 注2) 姫島村において、河川や山林などの自然環境や、行政の政策・施策によって形成された資本を指す。
  - 注3) 毎年盆の時期に姫島村各地区の盆坪で行われる。「盆踊り」を含め、「アヤ踊り」、「キツネ踊り」、「銭太鼓」、「猿丸太夫」の5つの踊りがあり、国指定無形文化財に選定されている。
  - 注4) 1905年ごろから毎年9月に行われる、大帯八幡社にある船を曳いて、歩く祭り。各地区が毎年持ち回りで担当する。
  - 注5) 年毎に恵比須神社が祀られている恵比須社に、その地区の漁師全員で豊漁祈願を願って参拝に行き、料理などをお供える。
  - 注6) 図2に見られる、生業である漁業や農業に關係する要素と、その他の祭事や慣習に關係する要素、商業に關係する要素や神社、セド
- 【参考文献】
- 1) 今村洋一、岡崎篤行、重要文化的景観における重要な構成要素の保護実態、日本建築学会技術報告集、第18巻、第40号、p.1073-1076
  - 2) 独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所「文化的景観資料集第3集 文化的景観保存計画の概要(Ⅲ)」、2015、p.2
  - 3) 林孝茂、姫野由香、大分県姫島村における生活・生業に関する重要な景観構成要素の特定、日本建築学会研究報告九州支部第56回(長崎)、2017、3月
  - 4) 安藤万葉、姫野由香、集落構造の変容にみるサステナブルコミュニティの理想に関する基礎的研究-大分県姫島村北浦地区におけるケーススタディ、日本建築学会研究報告九州支部第56回(長崎)、2017、3月
  - 5) 濱田波波、姫野由香、大分県姫島村西浦地区における集落構成-集落構成・生活空間特性と季節風、生業の關係 その1-、日本建築学会研究報告九州支部第57回(鹿児島)、2018、3月
  - 6) 離島統計年報6版(昭和50年版(1976年)、昭和55年版(1981年)、昭和60年版(1986年)、1990年版(1990年)、1995年版(1996年)、2000年版(2001年))、日本離島センター
  - 7) 離島統計年報CD-ROM版3版(2005年版(2006年)、2006年版(2007年)、2015年版(2016年))、日本離島センター
  - 8) 姫島村教育委員会「姫島村史」、1986

\*1 大分大学工学部福祉環境工学科  
\*2 大分大学大学院工学研究科博士前期課程  
\*3 大分大学理工学部創生工学科

学部生  
大学院生  
助教 博士(工学)

\*1 Undergraduate Student, Oita Univ.  
\*2 Graduate Student, Oita Univ.  
\*3 Research Associate, Dept. of Architecture, Faculty of Eng, Oita Univ., Dr.Eng